

臨床研究管理センター

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	15 人	
その他（技術補佐員等）	6 人	
合計	23 人	

2 教員の異動状況

古田 隆久（病院教授）（H17.08.01～H19.3.31 助教授；H19.4.1～H22.6.30 准教授；H24.11.1～現職）

鈴木 千恵子（特任助教）（H23.10.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	10 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	25.78	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	16 編	(15 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. **Furuta T**, Sugimoto M, Kodaira C, Nishino M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Watanabe H, Umemura K: Sitafloxacin-based third-line rescue regimens for *Helicobacter pylori* infection in Japan, *J Gastroenterol Hepatol*, 29(3), 487-493, 2014.
2. **Furuta T**, Sugimoto M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Watanabe H, Umemura K: Effect of dosing schemes of amoxicillin on eradication rates of *Helicobacter pylori* with amoxicillin-based triple therapy, *J Clin Pharmacol*, 54(3), 258-266, 2014.
3. **Furuta T**, Soya Y, Sugimoto M, Nishino M, Yamade M, Uotani T, Kodaira C, Sahara S, Ichikawa H, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Maekawa M, Watanabe H, Umemura K: Rapid Automated Genotyping of CYP2C19 and the *Helicobacter Pylori* 23S rRNA Gene in Gastric Juice, *J Gastroenterol Hepatol Res*, 2, 508-512, 2013.
4. **Furuta T**, Sugimoto M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Kagami T, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Watanabe H, Umemura K: Eradication of *H. pylori* infection in patients allergic to penicillin by the triple therapy with a PPI, metronidazole and sitafloxacin, *Intern Med*, 53, 571-575, 2014.

インパクトファクターの小計

[7.261]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Sahara S, Sugimoto M, Uotani T, Ichikawa H, Yamade M, Iwaizumi M, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Umemura K, Miyajima H, **Furuta T**: Twice-daily dosing of esomeprazole effectively inhibits acid secretion in CYP2C19 rapid metabolisers compared with twice-daily omeprazole, rabeprazole or lansoprazole, *Aliment Pharmacol Ther*, 38(9), 1129-1137, 2013.
2. Sugimoto M, Uotani T, Nishino M, Yamade M, Sahara S, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Umemura K, Watanabe H, Miyajima H, **Furuta T**: Antiplatelet drugs are a risk factor for esophageal mucosal injury, *Digestion*, 87(4), 281-289, 2013.
3. Zhang J, Osawa S, Takayanagi Y, Ikuma M, Yamada T, Sugimoto M, **Furuta T**, Miyajima H, Sugimoto K. Statins directly suppress cytokine production in murine intraepithelial lymphocytes. *Cytokine*. 2013 Jan 3. doi:pii: S1043-4666 (12) 00816-2.

インパクトファクターの小計

[9.006]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Nishino M, Sugimoto M, Uotani T, Yamade M, Sahara S, Ichikawa H, Sugimoto K, Umemura K, Watanabe H, Miyajima H, **Furuta T**: Association of gastric mucosal injury severity with platelet function and gastric pH during low-dose aspirin treatment, *Digestion*, 88, 79-86, 2013.

2. Murakami K, **Furuta T**, Ando T, Nakajima T, Inui Y, Oshima T, Tomita T, Mabe K, Sasaki M, Suganuma T, Nomura H, Satoh K, Hori S, Inoue S, Tomokane T, Kudo M, Inaba T, Take S, Ohkusa T, Yamamoto S, Mizuno S, Kamoshida T, Amagai K, Iwamoto J, Miwa J, Kodama M, Okimoto T, Kato M, Asaka M; For the Japan GAST Study Group.. Multi-center randomized controlled study to establish the standard third-line regimen for *Helicobacter pylori* eradication in Japan. *J Gastroenterol*. 2013 Oct;48(10):1128-35.
3. Tominaga K, Kato M, Takeda H, Shimoyama Y, Umegaki E, Iwakiri R, Furuta K, Sakurai K, Odaka T, Kusunoki H, Nagahara A, Iwakiri K, **Furuta T**, Murakami K, Miwa H, Kinoshita Y, Haruma K, Takahashi S, Watanabe S, Higuchi K, Kusano M, Fujimoto K, Arakawa T; G-PRIDE Study Group. A randomized, placebo-controlled, double-blind clinical trial of rikkunshito for patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitor: the G-PRIDE study. *J Gastroenterol*. 2014 Feb
インパクトファクターの小計 [9.516]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. **Furuta T**, Sugimoto M, Shirai N: Pharmacokinetics, Pharmacodynamics, and Pharmacogenetics of Proton Pump Inhibitors, *Front Gastrointest Res*, 32, 18-33, 2013.
2. **古田隆久**, 杉本光繁, 魚谷貴洋, 佐原秀, 市川仁美. *H. pylori* 三次除菌療法の現況と展望 日本臨床 71(8), 1404-1412, 2013.
3. **古田隆久**, 杉本光繁, 山出美穂子, 魚谷貴洋, 佐原秀, 市川仁美. 合併症を有する患者、併用薬のある患者に対する *Helicobacter pylori* 除菌療法. *Helicobacter Research* 17(8):284-290, 2013.
4. **古田隆久**. ヘリコバクター・ピロリ除菌治療の最前線 *CLINICAIN* 60(621), 718-728, 2013.
5. **古田隆久**, 佐原秀, 市川仁美. 浜松医科大学における「ピロリ菌・胃癌リスク検診外来」における胃癌予防への取り組み. *日本消化器がん検診学会雑誌* 5: 531-542, 2013.
6. **古田隆久**, 杉本光繁, 山出美穂子, 魚谷貴洋, 佐原秀, 市川仁美. 一次から三次除菌療法の実際と課題. *消化器の臨床* 16(4), 372-381, 2013.
7. **古田隆久**. ペニシリンアレルギー患者での *H. pylori* 除菌療法. *医事新報* 4659, 60-61, 2013.
8. **古田隆久**. 感染症トピックス 1) 細菌 (2) ヘリコバクター・ピロリ. *MEDICAL TECHNOLOGY* 41(12):1264-1267, 2013.
9. **古田隆久**. 除菌レジメン (三次除菌も含めて) *消化器内視鏡* 25 (12) : 2018-2019, 2013.
10. **古田隆久**. ヘリコバクター・ピロリ除菌治療の最前線 *CLINICIAN* 60(621), 718-728, 2013.
11. **古田隆久**. 除菌難渋例への対応 -薬剤耐性の実情と三次除菌、四次除菌レジメンの構築- *日本ヘリコバクター学会誌* 15(2):25-26, 2014.
12. **古田隆久**, 杉本光繁, 魚谷貴洋, 佐原秀, 市川仁美, 鏡卓馬. *H. pylori* 胃炎診療の実際 -エ

キスパートからのアドバイス (3) H. pylori 二次除菌失敗例に対する診療. 臨床消化器内科 29 (3) : 317-324, 2014.

13. 古田隆久, 杉本光繁, 山出美穂子, 魚谷貴洋, 佐原秀, 市川仁美, 鏡卓馬. アモキシシリン耐性の機序とその対策. Helicobacter Research 18(2), 142-148, 2014.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 杉本光繁, 魚谷貴洋, 佐原秀, 山出美穂子, 市川仁美, 古田隆久: pH モニタリング インピーダンスモニタリングによる診断, 最新医学 別, 77, 60-70, 2013.
2. 杉本光繁, 魚谷貴洋, 佐原秀, 市川仁美, 古田隆久: 24 時間を通じた酸分泌抑制のための PPI 分割投与の有用性, 消化器内科, 56, 159-166, 2013.
3. 杉本光繁, 古田隆久: HP 除菌療法における個別化療法の有用性, 臨床薬理の進歩, 34, 40-47, 2013.

インパクトファクターの小計 [0]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 古田隆久, 杉本光繁, 山出美穂子, 魚谷貴洋, 佐原秀, 市川仁美. 治療薬剤 1. プロトンポンプ阻害薬 最新医学・別冊 新しい診断と治療の ABC 6. pp135-pp148.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数 (出願中含む)	1 件

1. H. pylori の新たな検出方法 (出願中)

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(170 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	件	(万円)
(3) 他政府機関による研究助成	件	(万円)
(4) 財団助成金	件	(万円)
(5) 受託研究または共同研究	件	(万円)

(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	件	(万円)
---------------------	---	-------

(1) 文部科学省科学研究費

古田隆久：基盤研究 (C) 「ゲノム解析に基づく抗血小板薬内服時の上部消化管粘膜傷害予防法の確立」平成 23 年度～平成 25 年度, 170 万円(平成 25 年度分).

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1 件	7 件
(2) シンポジウム発表数	2 件	2 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	10 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Furuta T. Individualized eradication therapy for H. pylori infection based on genetic testing by the automated SNP analyzer. 2013 Chinese annual symposium on Gastroenterology. 2013/11/8-10. Beijing, China.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Furuta T, Sugimoto M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K. Effects of Different Dosing Schedules of Amoxicillin on the Eradication Rates of Helicobacter pylori by Triple Therapy With a Proton Pump Inhibitor, Amoxicillin, and Either Clarithromycin or Metronidazole. AGA 2013/05/18-21, Orlando, FL, USA

Furuta T, Sugimoto M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H. W3.1 - Effect of dosing schedules of amoxicillin on eradication rates of H. pylori by triple therapy with PPI, amoxicillin and clarithromycin or metronidazole. Workshop 3. Treatment and Drug Resistance. The XXVIth International Workshop of the European Helicobacter Study Group. 2013-09/12-14. Madrid, Spain.

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

Furuta T, Sugimoto M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Kagami T, Watanabe H, Umemura K. Effect of dosing scheme of amoxicillin on eradication rates of H. pylori by therapy with PPI, amoxicillin and clarithromycin or metronidazole. LBII-014 ASCPT 2014. 18-22/03/2014, Atlanta, GA, USA.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

古田隆久. 教育講演 11 消化器内視鏡における臨床研究のあり方、進め方. 第 85 回日本消化器内視鏡学会総会 2013/05/10-12. 京都

古田隆久 理想的な H. pylori 除菌診療のあり方を考える. イブニングセミナー2 第 101 回日本消化器病学会九州支部例会 第 95 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2013.06.21 小倉

古田隆久 いつ除菌するか?今でしょ!やっときた!日本国民皆除菌時代の到来! 第 6 回日本カプセル内視鏡学会学術集会 ランチョンセミナー 1 2013.07.28.東京

古田隆久 ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎除菌開始半年後の問題・課題を考える 1 除菌療法 JDDW 2013 ランチョンセミナー40. 日本消化器病学会大会 2013.10.10

古田隆久 そうだったのか!ピロリミクスの三本の矢 第 34 回 日本臨床薬理学会ランチョンセミナー 1 2 第 34 回日本臨床薬理学会 2013.12.06 東京

古田隆久. 抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドラインの要点. 第 27 回 日本消化器内視鏡学会九州セミナー 2014.01.26、博多

古田隆久 胃癌撲滅へのピロリミクスの 3 本の矢! ランチョンセミナー 4. 第 10 回日本消化管学会 2014.02.14-15. 福島

3) シンポジウム発表

古田隆久、杉本光繁、魚谷貴洋、佐原秀、市川仁美. S3-5 高用量 3 剤 PPI/AMPC/Ecabet sodium 療法による Hp 救済療養 S3 除菌難渋例への対応 第 19 回日本ヘリコバクター学会 2013/06/28-29、長崎

古田隆久、杉本光繁、魚谷貴洋、佐原秀、市川仁美.ABC 検診における血清ペプシノゲンの H. pylori 感染症診療への応用の有用性 S5 集団検診と ABC 検診と二重造影法の比較、それ以外の集団検診の現状.第 19 回日本ヘリコバクター学会 2013/06/28-29、長崎

4) 座長をした学会名

古田隆久 第 85 回日本消化器内視鏡学会 PD1 内視鏡を用いた分子病理学的診断 2013. 05. 10-12.

古田隆久 第 19 回 日本ヘリコバクター学会 S3 除菌難渋例への対応 長崎 2013/06/28-29.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 古田隆久:日本内科学会（認定医 1990～ 認定医番号: 1679、認定専門医 2006～、認定専門医番号 13498、東海支部評議員 2012～）、研修医指導医（2007.9.1～）
2. 古田隆久:日本消化器病学会(1988/07/01 入会、専門医 1998/01/01～専門医番号:23496 号、指導医 2009,1/1～指導医第 03365 号、東海支部評議員 2005～, Journal of Gastroenterology 編集委員 2007～、学会評議員 2009～、ネットワーク委員 2011～、専門医制度審議会委員会東海地区委員 2012～、データベース管理委員会 2013～)、
3. 古田隆久:日本消化器内視鏡学会（専門医 1994.12.1 00940457 指導医 2004.12.1～指導医番号:940457：東海支部評議員 2003.12.11～、学会評議員 2010～、内視鏡学会和文誌編集委員会査読委員 2011～、LSBE 委員会委員 2011～、医療安全委員会委員 2013～
4. 古田隆久:日本臨床薬理学会(1997.09.02～認定医 2005 1/1,～ 認定医番号:0504 号、指導医 2005 4/1～ 指導医番号 0513 号、評議員 2004～、海外研修員 2001～3 年、ゲノム委員会委員 2006.1.1～、学会誌編集委員 2007～2012)、総務委員会委員 (2013.1.1～)、国際交流委員会 (2013.1.1～)
5. 古田隆久:日本ヘリコバクター学会（評議員 2004～、定款委員 2009～、耐性菌サーベイランス委員 2009～、学会賞選考委員 2010～、社会保険委員 2012～、学会誌編集委員 2012～）、ヘリコバクター感染症認定医(2009.11.1～、認定医番号：00098)
6. 古田隆久:日本消化管学会(2004/08/17 評議員 2004～、情報委員会委員 2011～、学会賞選考委員：2011～、日本消化管学会胃腸科認定医 (07381 号、2007.11.01～)、日本消化管学会胃腸科専門医(第 13300463 号、2013.11.01～)、日本消化管学会胃腸科指導医(第 13300341 号、2013.11.01～)
7. 古田隆久:日本消化器がん検診学会（1996.04.01～ 認定医 2010～、認定医番号 1904）*、
8. 古田隆久:日本臨床腫瘍学会（2004/09/13～ 暫定指導医 2006/04/01～、第 05077 号）、
9. 古田隆久:日本癌治療学会、(2005 年 10 月 5 日～ 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 2009.04/01 （第 08100932 号）)
10. 古田隆久:日本胃がん予知・診断・治療研究機構 社員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	5 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 古田隆久 Journal of Clinical Pharmacology (USA), Editorial Board PubMed 登録あり,(IF: 4.162)
2. 古田隆久 Pharmacogenomics and personalised medicine : PubMed 登録あり Editorial Board
3. 古田隆久 Journal of Clinical Pharmacology , Editorial Board, PubMed 登録あり (IF: 3.590)
4. 古田隆久 European Journal of Clinical Pharmacology, Editorial Board PubMed 登録あり (IF. 3.032)
5. 古田隆久 World Journal of Gastroenterology (IF:3.788)

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 古田隆久 : 2 回 Alimentary Pharmacology & Therapeutics (英国)

2. 古田隆久：2回 Digestion (スイス)
3. 古田隆久：4回 European Journal of Clinical Pharmacology (英国)
4. 古田隆久：1回 Gastric Cancer
5. 古田隆久：1回 Journal of applied Biomedicine (米国)
6. 古田隆久：3回 Internal medicine (日本)
7. 古田隆久：15回 Journal of Gastroenterology(日本)
8. 古田隆久：2回 Journal of Gastroenterology and Hepatology (オーストラリア)
9. 古田隆久：1回 Ulcers (ドイツ)
10. 古田隆久：1回 日本ヘリコバクター学会雑誌 (日本)
11. 古田隆久：1回 日本消化器病学会雑誌 (日本)
12. 古田隆久：2回 日本内視鏡学会雑誌 (日本)

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	1 件

- (1) 国際共同研究
- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	1 件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 古田隆久： Kras 変異陽性大腸がんに対する topoisomerase- I 阻害薬と分子標的治療薬 Regorafenib の併用効果についての検討

切除不能進行大腸がんに対しての化学療法では、細胞傷害性抗腫瘍薬と分子標的治療薬の併用が行われている。現在併用薬として使用されている分子標的治療薬（EGFR 阻害薬）は Kras 変異陽性大腸がんには奏功しない。近年、経口分子標的治療薬の Regorafenib 単剤投与が、標準治療施行後に増悪した切除不能進行大腸がん患者を対象に有効性が報告され、2013 年には臨床で使用可能となった。Regorafenib は MAPK 経路の Kras の下流にある Raf を阻害する作用をもち、Kras 変異陽性大腸がんにも有効と考えられる。そこで、Kras 野生型および Kras 変異陽性大腸がん細胞株を用いて、細胞傷害性抗腫瘍薬（Top I inhibitor）と Regorafenib 併用での抗腫瘍効果を評価し、Top I inhibitor で生じる DNA 障害（double strand break）に対する影響を検討する。（市川仁美, 佐原 秀,

杉本光繁, 古田隆久)

2. 古田隆久: H. pylori の除菌療法において AMPC の投与スケジュールの工夫の有用性をしめした。
3. 古田隆久: アスピリン潰瘍のリスクに関わる SNP の検討を行った。

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

新規 H. pylori 検出法を考案し特許出願し、企業と共同での開発を開始した。

ピロリ菌・胃がんリスク診断外来では、高い除菌率を維持しており、予約も3ヶ月先まで埋まっている状況である。

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

H. pylori 除菌の SNP 解析に基づく除菌療法は高い除菌率を達成でき、国際的評価も高くなってきている。

15 新聞, 雑誌等による報道

古田隆久: ソネット M3 ピロリ菌除菌道場